

平成24年度消防研究センターの一般公開

消防研究センター

発明の日(4月18日)を含む科学技術週間に合わせて、4月20日(金)に一般公開(オープンキャンパス)を実施しました。今年度も平成22年度と同様に、隣接する消防大学校、日本消防検定協会及び財団法人消防科学総合センターと共同で開催し、いわゆる三鷹キャンパスをあげての一般公開となりました。東京消防庁からの出展協力もあり、出展内容も大変充実したものとなりました。

今年度の一般公開では、日頃の研究成果の報告や毎日の防火安全につながる体験コーナーなど全26項目にわたる展示・実演を行い、500人近くの来訪者を迎えることができました。来場者の職業別内訳としては、会社員(消防防災関連企業を除く)の参加者が最も多く(49%)、続いて消防防災関連企業の会社員(23%)、消防職員(14%)となりました。

●一般公開の様子

一般公開で行われました火災及び消火の実験には、多くの皆様に関心を持っていただけたようです。背景として、平成23年3月11日の東日本大震災の津波で浸水した地域における大規模市街地火災の発生が世間に衝撃を与えたことがあるかと思えます。懸念される首都直下型地震や南海地震などでの火災に備え、消防研究センターでは火災や消火に関する研究に取り組んでおります。なかでも、最近、火災時に発生する旋風の研究は注目を集めております。一般公開においては、大規模実験棟の施設の中で火災旋風の実演を行いました(写真1)。

また、消火においては、2流体ノズルを用いて可燃性液体火災を消火する実験及び体験(写真2)を行いました。2流体ノズルは、最適な霧状の水を噴射し、水損を少なくして効果的に初期消火を行うことができ、皆様から多くの体験希望のお声を掛けていただきました。

●今後の抱負

来場者アンケートの回答によれば、参加者の77%もの方から一般公開の内容に興味を持ったとの回答をいただいております。消防研究センターは、今後も、国民の安全を守る身近な研究機関として、また、消防防災を専門に研究する唯一の国立研究機関として、より一層、消防防災科学技術の向上に努めてまいります。



写真1 火災時に発生する旋風の実験風景



写真2 2流体ノズルを用いた消火体験の様子



写真3 消防車両の展示(消防大学校)